

みんつど

第十一号

編集 天地 成行

村岡鍼灸治療院

山口市湯田温泉5丁目6の12



拙著「わたしは山頭火!?' 全国各地からの感想特集

みなさん、お

正月気分でしょうかね？

わたしは、年末にこれを書い

て、年始はゆつたりしてしまお

うと、気楽な気分で臨んでいます。

今号は、拙著「わたしは山頭火!?'

の感想特集であります。

一面と三面には、鹿児島市の精神疾患を

もった方が主たる事業所の「ラグーナ出版」

編集部の方からの感想です。当事者だからわ

かる視点などお楽しみに読んでみてください。

四面は、日本福祉大学の青木聖久（あおききよ

ひさ）教授の感想もあります。原井育子さんの

レシピもあります。どうぞ読んでみてください

ね。

それにしても、寒くなりました。これを発行

するころにはどうなっているのだろうかかと危

惧します。みなさん。心も体もほっこりとあ

たたかくされてください。

こんな媒体でも毎号首が伸びるほど待つ

てくれている読者を思う度に、身が引き

締まる思いでいっぱいです。

金光光雄フアンの方もしばしばお

待ちください。彼も新作をい

つか披露してくれると思

います。ではスタートで

す。

「わたしは山頭火!？」感想

ラグーナ出版編集部より

後半の「離職」から精

神障がいらしい奇行などが出てきて、そこからの回復がよいと思いました。障がい年金をもらってから入院したのはすごいですね。私は、いくら精神病にかかっても、専門知識がある人は何とかなるのではないかと考えていました。天地成行さんは専門知識をいかして新聞や本をつくることで、できてすごいですね。どう仕事へつなげるか、この本でつながっていくといいですね。作品を読んで、私は現在きつい薬を飲んでいことに気づきました。いつか主治医に薬を減らしてくれないか相談してみようと思います。精神病は人それぞれでいる薬も人それぞれであるという現実はどうも思えないし、自由律句の書き方は、詩などへも応用できるのではないかと思います。(ウナム)

◇

自由律俳句をやっているらしやる裏側には新聞社勤めで鍛えられた言葉の感覚を錆びつかせないという、そういう意味合いもあるのではないかと読みながら思いました。そういうふうにかかれているところもありますよね。

餅は餅屋といえます。若いときに職業的な目的で鍛えられたものは、きっとその時はきつかったことと思いますが、その時でないと鍛えられない、その時でないと伸びないなにかがあると思います。うまいこと縁があつて、自由律俳句に出会えてよかったですね。病気が再発して、醜態を晒すかもしれない、そ

ういう心身を持つていていうことは、ひどく堪えることです。私もそれを突き放し、道化性に心を遊ばせるみたいな心境にはなれません。そこまで行きつけばある種の「達人」なのでしょうが、その点からみると私は凡人だと思えます。あつて

最後に、人それぞれ見てきたものは違い、それは書かれてみないとわからないものだと思います。そういう意味では私たちはまだ、人の人生ってどんなものなのかというのを本当に表層的にしか理解していないと思

ます。それを理解するためには痛みを伴いつつ、それぞれの人が自分の人生のあれこれを開示してくれないとなかなか難しいし、また、それができるための書く力が備わっていないと難しいと思います。

私たちは、人の人生を、比較的少数のリーダー的人物のサクセスストーリーやら、虚構の部分がある小説によって理解しようとしているような気がします。もっと本当の人生を知りたいです。そして、さまざまな人の経験とか教訓とか借りて、自分の人生を考えるためのよすがとしたいです。(エピンビ)

※一部編集しました。

俳句をする人はボケない

俳句雑誌『山彦』(主宰 河村正浩)

〒744-0024 山口県下松市花岡大黒町526-3 ☎ (0833) 43-7531

レストハウス

岩国市川西4の5の156

たんぽぽ

TEL (0833) 439999

ラグーナ出版編集部感謝続々

臨場感にあふれ、統合失調症の体験談として素晴らしいものに仕上がったと思います。

読んだ人に感動を与え、そして自由俳句との出会いも、回復にとっても役立つと思います。天地さんの「ケータイ記者ユーキ君」も読者に好評で、小説のほうでもぜひ、がんばってほしいと思います。本にでてくるエッセイもユーモアたっぷりです。楽しく読めました。人生というのはいつ終わりがくるか誰にもわかりません、だからこそ、今をだいじにして、自分が本当にやりたいことを追求してください。

わたしもいま、最初の一步を踏み出したばかりです。四十代半ばの旅路ですが、本当にやりたかったことだからこそ頑張れます。何を始めるのも早くも遅くもない、始めよ

うと決めたときが始まりなのです。

現在私は、家族が苦しい状態で、その付き添いで仕事を休んだりして、久しぶりに出勤をしたのですが、一人で迷宮に入っていたのが、はっと、目を覚まさせられました。

自分の居場所があるということは、本当に恵まれた環境にいるのだと改めて感じ、仕事への意欲も戻ってきました。今後どのようなことが待っている、今の気持ちを忘れずに、前を向いて進んでいこうと思います。(有川)

◇
通読してまず一言、驚きである。私自身も統合失調症患者だが、作者は私のくだらない人生とはスケールが違いすぎる。

全体、精神病に28歳で罹患してからも、10年勤め続けていたというの

は、非常にすごいことである。改めて才能の凄さに頭の下がる思いである。24時間サンダルマラソンにも非常に感心した。

しかし、真価が発揮されたのは、河村正浩先生や富永鳩山先生に師事しての自由俳句の創作活動であると思う。入選した「ちぎれ雲に空が広すぎる」に代表される一連の句は実に見事だと感銘を受けた。今後とも型破りな作品を作り続けてほしいと思う。

また作者は新聞記者だった経験を活かして、新聞「みんつど」を発行しておられる。この新聞は、創刊号から現在に至るま

で読ませてもらったが、オリジナリティー溢れる記事や短編小説に思わずうならせられた。

また弊社の発行している雑誌「シナプスの笑い」には現在、「ケータイ記者ユーキ君」が連載されている。これもまた小学5年生の山田ユーキ君が、父親が編集長を務める家族新聞に、子ども記者として記事を書くという斬新なストーリーで、校正しながら楽しく読ませていただいている。大変ありがたいことである。(緒田士郎)

周南地域のケーブルテレビで放映中の福祉番組

こころてれび

MC
大橋広宣
恵 雅子

周南の地域で支える「心の悩み」

ひだまりの会

代表(松田茂) 0834(26)0533

コロナウイルスと闘う
医療関係者の皆様へ
心より感謝申し上げます

株式会

くらとん

ウエブ制作版

〒742-0417

岩国市周東町下久原221-1

TEL0827 (81) 1551

<https://crouton.co.jp>

「わたしは山頭火!?!」

青木聖久・日本福祉大学教授の感想

何と言いましようか。
天地さんは、ヒューマニズム溢れる方であり、感性に富む文章が満載ですね。

さすがに、文章がお上手ですので、本当に読みやすかったです。
私自身、本の編集に携わることも少なくありません。

原井育子さんコーナー②

あったかスープを紹介します。寒い冬、胃を温める鮭とキャベツをあったかスープでいただきますしよう!

【材料】(二人分)

生鮭一枚(食べやすい大きさに切って塩ひとつまみ。酒大さじ一で下味つける)
キャベツ二枚(ザク切り)

ネギ二分の一本(斜めうす切り)
しょうが一枚(たわしで洗い皮付きのまま薄く切る)
水二カップ

鶏がらスープ小さじ二分の一

【つくり方】

①鍋に熱湯を沸かし、下味をつけた鮭をさつとゆでてザルに上げる。
残った熱湯は捨てる。
②鍋に2カップの水と鶏がらスープ、しょうがを入れて火にかけ

る。
③煮立ったら、ザルに上げた鮭、キャベツ、ネギを加えて5分煮る。
④薄口しょうゆや塩こしょうで自分の好きな味にとのえる。
いかがでしょうか。

ん。その際、一文が長すぎたり、主語と述語のかけりが不明確だったりしている等、研究者の文章でも読みづらいものが多いです。そのようななか、天地さんの文章は、ずっと読めたので素晴らしいです。実際、大学院生の論文指導でも、文章指導が半分強です。
では、以下、順不同での感想です。

○安溪先生もコメントされているように、天地さんの文章は、体験談や主観の文章の後に、その根拠をしめしていることで説得力があります。ある意味、新書等は、

そのような構成になっていることを考えれば、限られた字数の中で、いい感じですよ。

○誰かを攻めるようなものになっていないのいいです。なかには、体験談のなかには、社会への苦情・恨みが大半を占めるものがあります。

ところが、天地さんの場合は、人を攻めないの、安心して、優しい気持ちで読めるのです。というか、人のいいところをほめておられる、まさに、ストレングス視点です。そこが気持ちがいいです。
○具体的に描写されているのいいです。この

あたりのことが、精神障害による病的体験や、障害の部分で、生きづらさがある、ということが伝わるものとなっています。例えば、51頁の「この長老は貫禄もあるし開放された中略」等は、まさにその部分です。
加えて、88頁をはじめ、時々出てくる「一人ひと時間サンダルマラソン」のことは、真骨頂です。また、そこにユーモアもあり、イメージがわくものとなっています。

○社会への汎用性の提言として、88頁の「良く寝た翌朝はリセット中略」の一節は、なるほどです。
また、この文章を、天地さんが発するから意味があります。また、前半の壮絶な部分を見せつつ、最後にこの文章の登場するので、よりなるほどです。(あおきよひさ)

編集後記

八十の目標

久しぶりに顧問の村岡正さんから電話があった。「わし八十になったら鍼灸院リタイヤして、二人乗り自転車買おうから、一緒に山口から愛媛行こう」
あ然。視覚障害であることを忘れさせる人だなあ、四泊でいけるさんなんて簡単にいうんだもんなあ。
わたしはタクシーを頻繁に使う貧乏人であるためかなり返答にとまどった。
「百キロ超えるわしが乗れるのかなあ」
「大丈夫なんとななる」
うーん、かないませんなあ。どうなることか、あと二年です。

大人世代 癒しの空間

cafe おだやか

周南市桜木3の5の15

TEL 0990 (946N) 0004